

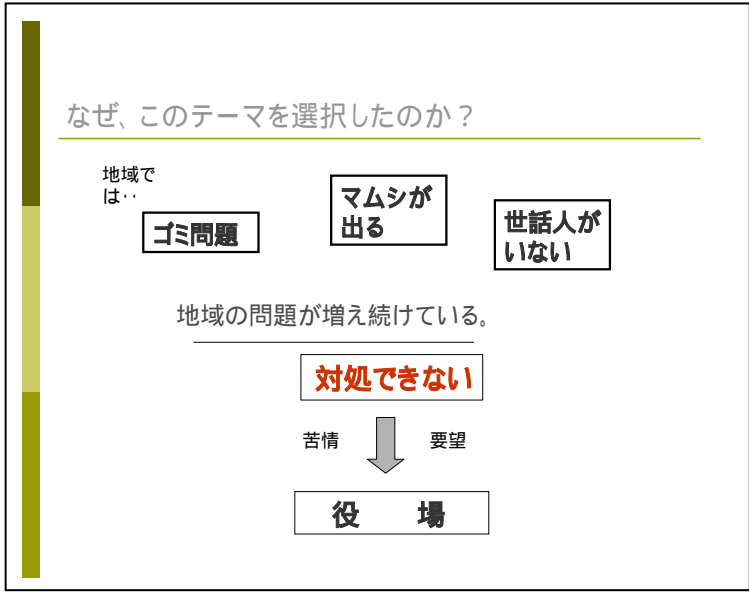
テーマ
「地域におけるコーディネート機能について」

〔提案者〕
宮崎結城(野市町健康福祉課)
山首尚子(高知県ボランティアコーディネーター研究会)
依光晃一郎(NPO法人FUSE)

それでは「地域におけるコーディネート機能について」発表します。

いろいろな団体や組織、小さなグループにも、それぞれにリーダーがいます。そして、その中に内部の調整をしたり、外とのつながりを調整したりするコーディネートの役割をする人も同時にいます。

「コーディネート」という言葉は日常よく使われますが、私たちのグループは、そうした「コーディネート機能」というものに注目しました。

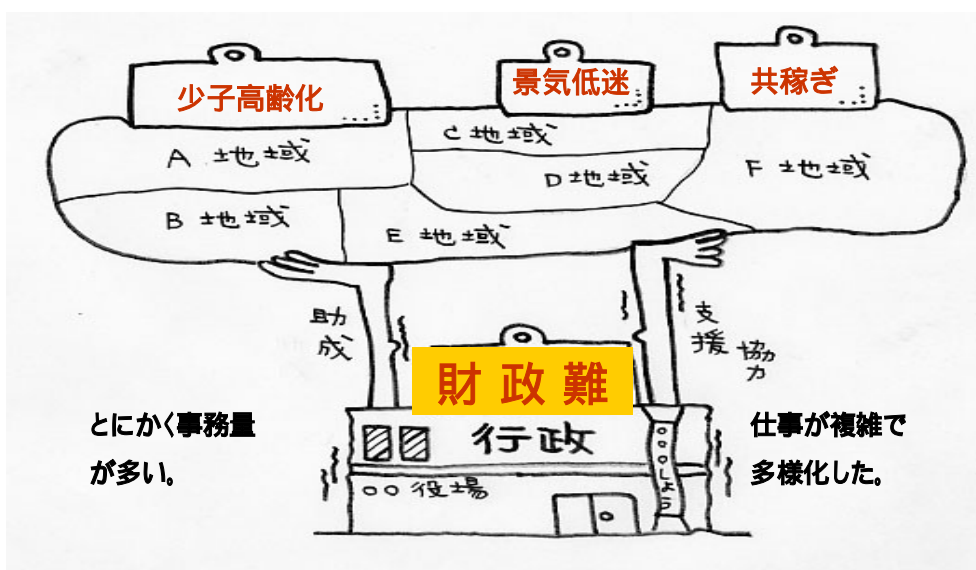


今、地域では、ゴミを出す際、決められた曜日ではないのに、ゴミが出されているとか、マムシが小学校の通学路の近くで出たとか、地域の世話人がいないとか、小学校のPTAの会長をしてくれる人がいないとか、自治会長がなかなか決まらないとか、またその他にも、自宅の軒下にスズメバチの巣が出来て刺されたら死ぬるとか、他にも隣の

の家が何かを燃やして煙たいとか、いったい誰が解決したらいいのか、ちょっと分かりづらい問題も含めて、地域の問題が増えつづけています。

昔であれば、となり近所のお付き合いとか、支えあいとか助け合いといったもので、自分たちで何とかしていたことが、今は対処できない事として苦情とか要望の形で役場に持って来られています。

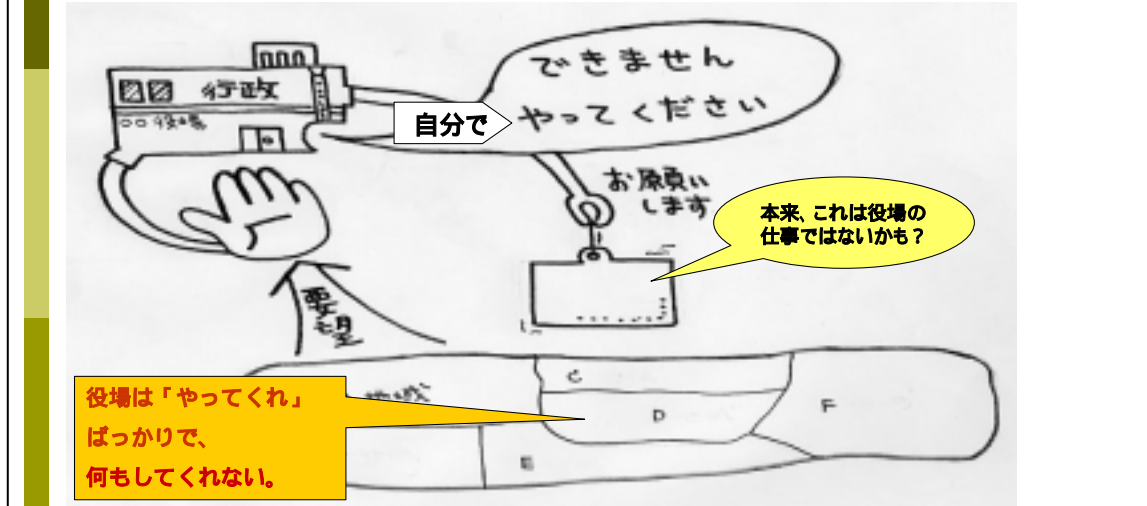
行政側からみた「行政と地域」の関係



ところで、行政側から見た“行政と地域の関係”は、絵にすると、このようになるといえます。今、行政は財政難です。身動きがとれない状況になっています。それでいて、地域ではいろんな問題があります。私が住んでいる野市町では、共稼ぎで、核家族で、子育て支援の問題等もあります。こうした地域を役場・行政は必死で下支えをしているというイメージです。



住民側からみた「行政と地域」の関係



一方、住民側から見た行政と地域の関係は、このようなイメージになると思います。地域からの要望は、少しも受け入れてくれない。個人的なことは自分でやってください。地域のことは地域で解決してください。それでいて、地域の世話人の所には、今度、会をやりますから出席して下さいとか、地域の意見を取りまとめて下さいとか、役場から依頼の文書がどんどん送られて来ます。住民から見ると役場は「やってくれやってくれ」ばかりで何もしてくれない、というイメージになるのではないかと思います。

地域も役場も「変化」の荒波を受けている

地域の現状

- ・少子高齢化
 - ・転出者(転入者)の増加
 - ・価値観の違い
 - ・生活の変化
- 地域の課題解決力が低下している。

役場の現状

- ・仕事が複雑化し量的にも増加している。
- ・財政難。

課題が多い

役場に頼れない。

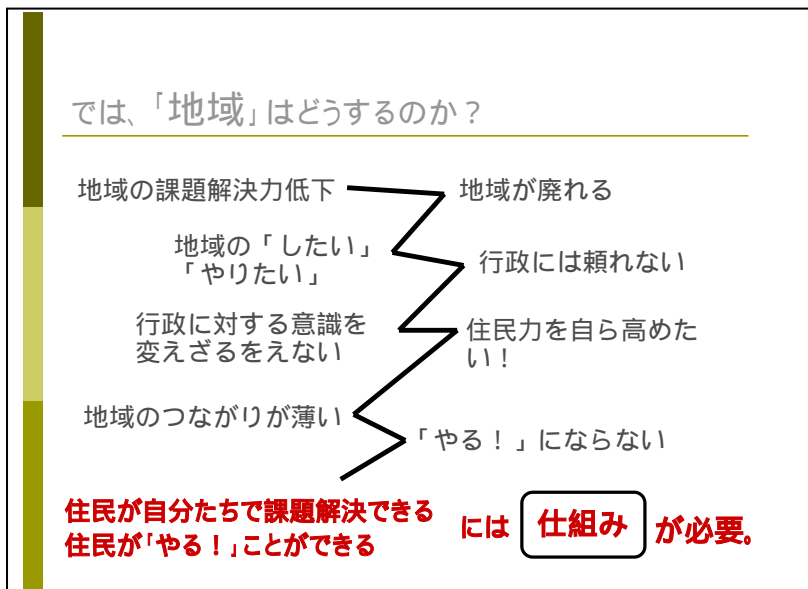
対応が難しい。

財政的に厳しい。

では、どうする？

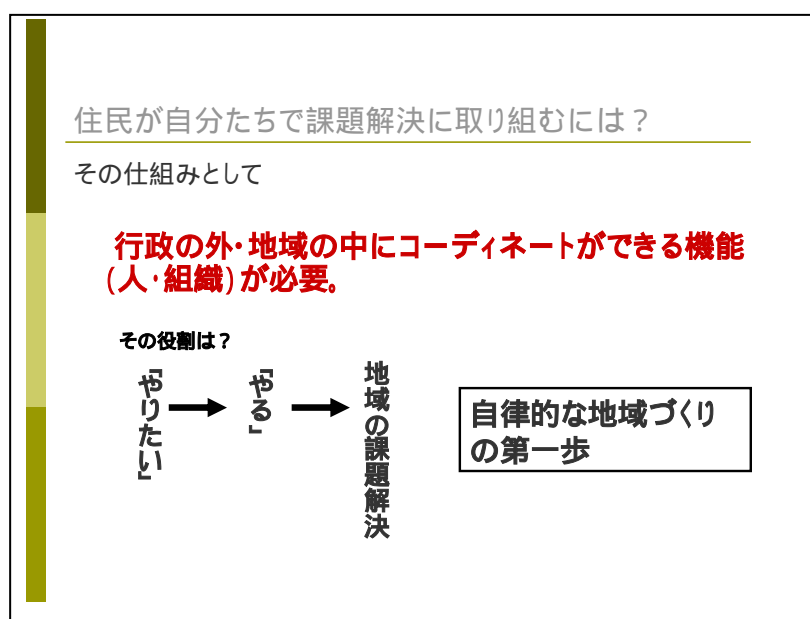
昔は、誰かがやろうと言ったら、みんなでやろうという地域のまとまりがありました。しかし、今、地域の現状は左にある種々の事が原因して、価値観の違いや生活の変化から地域のことについて無関心であると感じます。そうして地域が、自分たちで課題を解決

していこうという力が低下しています。一方で、役場も10年ぐらい前までは、借金をしながらでもまちづくりを推し進めることが出来ました。しかし、今、役場は仕事が非常に複雑になり、そして財政難です。地域にいくら課題があっても役場では対応が難しい、財政的に厳しくて予算がない、そのため地域は役場には頼れない、こんな状態にあります。



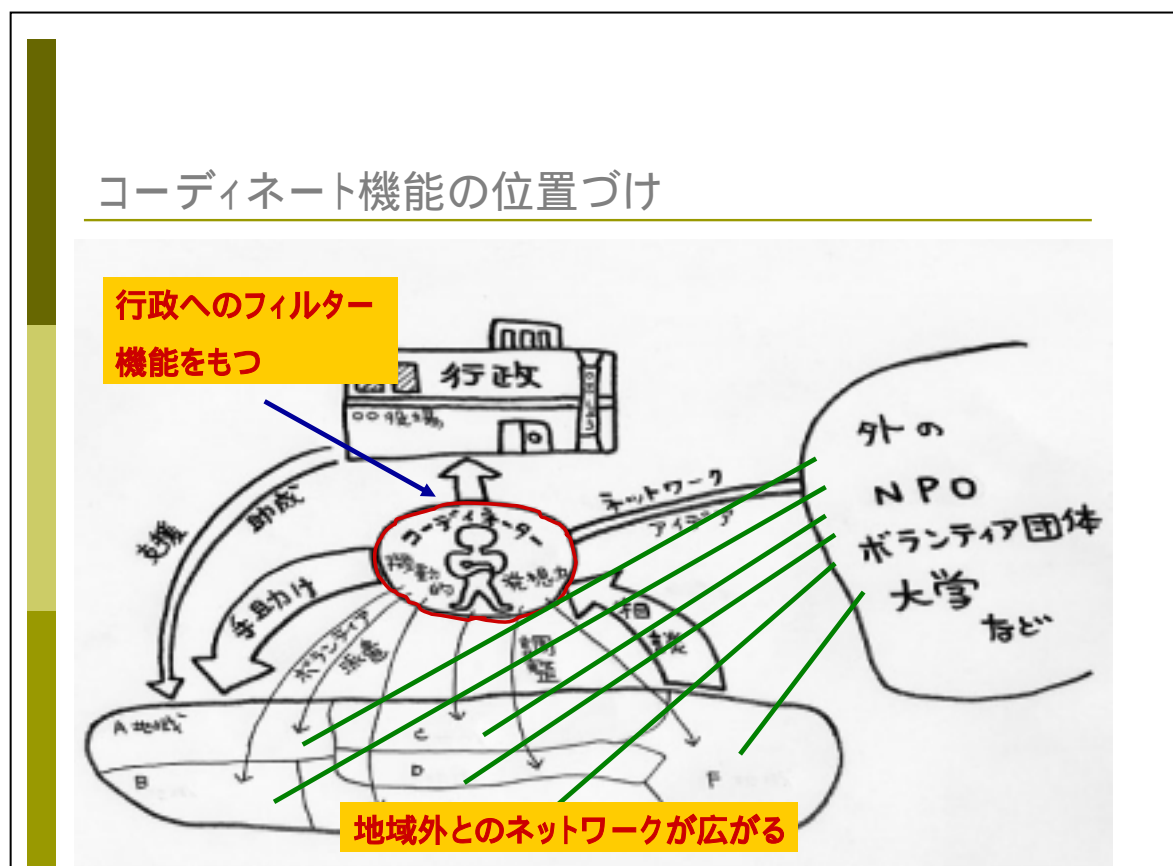
では、地域は一体どうしたらいいのでしょうか。このまま地域の課題解決力が低下していくと、地域が廃れていってしまいます。しかし、地域の中に目を向けると、地域を何とか「したい」とか、何かを「やりたい」という気持ちが無いわけではありません。しかし、行政には頼りません。住民の「したい・やりたい」を役場に「やってもらう」と

いう意識を変えていかざるを得ません。そのために住民力を自ら高める必要があります。しかし地域の繋がりが薄くて、住民の「したい・やりたい」がバラバラでまとまりません。つまり、「やる」になりません。住民が自分達で解決できる、住民がやる事が出来る、こうするには、何かの仕組みが必要になってきます。



その仕組みとして、行政の外にあって、地域の中にコーディネートが出来る機能が必要です。それは、人である場合も組織である場合も考えられます。その機能の役割としては、住民の様々な「やりたい」を「やる」に変えていき、「やる」ことによって地域に課題解決力をつけていく。そして

この住民の「やりたい」を「やる」、課題解決力をつけていくことで、自律的な地域づくりの第一歩を踏み出して行くというものです。



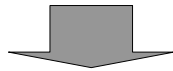
コーディネーターの位置は、上の図のようになると思います。今までであれば「何かあれば役場に持っていきよう」という課題については、このコーディネーターが地域からの相談を受けて、地域の中を調整したり、アドバイスなど種々の手助けをしたりして、地域の中で解決することを可能にしていきます。もちろん地域だけで解決できない、行政が関わるべき問題については、コーディネーターの判断のもと、地域と行政を調整するという役割も持ちます。ここで、行政へのフィルター機能を持つということになります。

また、地域とNPOやボランティア団体等地域の外とをネットワークでつなげることによって、地域の外からアイデアを持ち込んだり、また、地域の課題に応じて、ボランティアを受け入れるという、地域でのネットワークをつくっていくことを可能にしていきます。

コーディネーター機能の意義

地域のやりたいことに役立つ

- ・ 役場からの情報で、理解できなかったことの「相談にのる」。
- ・ 役場が出来ることと出来ないことの「相談にのる」。
- ・ コーディネーターのネットワークを駆使し、課題解決に向けて適切な情報提供やさまざまな支援をする。
- ・ 機関や組織間を総合的に調整する。



地域の課題を自らで解決する力がつく。



自律的な地域づくりの実現へ

コーディネーター機能の意義としては、地域の「やりたい」ことに役立つというものです。

そのために、この四つの働きをします。コーディネーターは、直接地域の問題に取り組むのではなくて、相談にのるとか、ネットワークを作るとか、調整をするとか、支援をするというものです。

つまり、地域の課題

解決に向けて自らリーダーシップを発揮するというものではありません。そのため、地域が自ら解決していこうという力が付いていくのです。この力を付けていく、この力を高めることによって「自律的な地域づくり」の実現が可能になっていきます。

終わりに ~これから必要なこと~

- ・ コーディネーターを養成するシステムの確立。
- ・ 行政は、コーディネーターの役割を理解し、業務の分類整理をおこなう。そして、コーディネーターをサポートする体制を整える。
- ・ 住民は「やりたい」と思ったことを素直に「やれる！」

終わりに、これから必要なこととして「コーディネーターを養成するシステムの確立」です。行政はこのコーディネーターの養成を、大学やNPOに働きかけるなどして、そのシステム作りを確立する必要があります。

また行政は、コーディネーターの役割

を十分に理解し、その役割をふまえて行政内部の業務の分類・整理を行う必要があります。そしてコーディネーターをサポートする体制を整えるという必要があります。

また、このコーディネーターの役割が十分発揮された時、住民は「やりたい」と

思ったことを素直に実際に「やる」、また住民には自信をもって「やれる」という意識が必要です。

このテーマについて、グループの中で話し合いをしている中で、住民の地域に対する意識のズレは、地元の神社のお祭りがなくなったとか、地区の運動会に参加してくれる人がいなくなったとか、そういう明らかなことだけではなくて、地域のつながりの薄れが様々な形で、いろいろな問題を引き起こすきっかけとなっているのではないかと感じました。また、この地域のつながりの薄れが原因となることが、次々と新たに行政の仕事になり、また財政的な負担になっていってしまっているのではないかという気がしました。そういう意味で、このコーディネーターを養成する仕組みをつくり、実際に養成していくことが必要であると思いました。

仙頭野市町長コメント

今まさに、一番大事な地域を活性化するコーディネーターということで、テーマを選んで発表がありました。地域は、まさしく今日の発表にあったような状態でございます。そのような地域において、やはり横のつながりということが薄れてきていると思います。それは、野市町は特に外部から人口が増えており、ミニ団地のところには、よく多くのコーディネーターが必要ですが、地域の人との接点が無いということで、今、説明があったような状態です。やはり、これを解決するには、さきほど発表していただいたところを、もう一つ踏み込んで、やはり地域を一番知っている役場の職員が、それぞれの地域へ入って、それぞれの地域の課題、そしてコーディネーターになる人材を発掘して、その上でコーディネーターの養成をすることが大事ではないかと私は思います。

そういう意味では、この発表をきっかけに、野市町でも地域へ役場の職員が入って行って、そして人材を発掘し、そして共に一年ぐらい助走をして、コーディネーターの役割を発揮するということにしなければいけないのではないかと、というふうに改めて考えました。

本日の発表は素晴らしい議題でした。今の現在のテーマに、真正面に取り組んだ発表でして素晴らしい発表であったと思います。

グループ会でのヒトコマ

